

山形発

元気なモノ作り
(2)

「株」いそのボデー

創業1927(昭和2)年。会社設立昭和39年2月。磯野栄治代表取締役社長。資本金3630万円。自社ブランド「iSkippDoor(アイスキップドア)」付ドライブバン、ウイングボデー

など製作。2006年、車体に流麗に社名やロゴなど描くことができる「iSkippDoor」でエクセレントデザイン受賞。「iSkipp」の「i」は「IT」「iモード」、そして「いその」の「i」。「Skipp」は弾むように普及を、との願いを込めた。山形市西越25。電話023(624)1711。

トラックボデーに新境地 ボタンひとつで開閉安心

倉庫に嚴重に鍵をかけ警備会社にガードを委託するがごとく、走行中のトラックのセキュリティもまた重要なことである。しかし、ともすれば荷台の扉への関心はおろそかになりがち。一方で、観音扉のトラックのユーザーから、商品を降ろして宅配するためトラックを離れる際、いちいち鍵を掛けるのが面倒だ、という声が聞こえていた。公認会計士を辞し35歳で家業を継いだ磯野栄治社長は、そこに着目した。何としても自社ブランドの製品をつくりたい、と思っていた。

自動開閉となっていた。これをトラックボデーの開閉に応用できないか。しかもリモコン操作で。とはいえ、開発は容易なことではなかった。試作したもののドアの動きはスムーズさに欠け、時に手を挟まれるといった事態が起きた。制御盤、モーターも大き過ぎる。うまく行かず中断せざるを得なかった。

そして半年後、東京での研修会で、講師の経営コンサルティング多喜義彦氏と懇意になり、山形の工場に招いた。訪問(要請)の目的は別の案件であった。運命的な出会いだった。案内し始めてほどなく、多喜氏が放置されたまま雨ざらしになっていたボデーの前で足を止めた。

「これは何ですか」。

(るる) 説明した。すると、「これ行けるよ、行けますよ」。

多喜氏が大きな関心を示した。それからの動きは素早かった。氏の紹介で、新たなモーターを導入することができドアの開閉もスムーズになった。完成したりリモコン式オートスライドドアに「iSkippDoor(アイスキップドア)」と命名、特許を取得し2001年のトラックショーに出品した。

驚きの声が上がった。

最大の特徴は「セキュリティ」。ドアが閉まると同時に自動ロックが掛かるため「閉め忘れ」がない。荷物の盗難を予防、安全安心を高める。次に「作業労力の軽減。効率化」。個人宅・商店への宅配は頻繁に積み降ろしする。リモコンボタンを押さえればドアを開閉することができ、観音扉のように荷降ろしのたびに荷物を地面などに置く、といった必要がなくなる。

ショーで注目を集めたことにより、第一号品100台ほど販売した。待望の自社ブランド製品だ。しかし、ユーザーから苦情が寄せられた。「リモコンの電波が微弱なためスムーズに作動しない」、「メンテナンス対応が十分でない」。真の意味のメーカーになるためには、乗り越えなければならぬ課題だった。

「ユーザーに丁寧に対応すること

山形デザインコンペティション実行委員会(県、山形県商工会議所連合会などで構成)は、魅力的で競争力の強い商品づくりとデザインマインド向上を目指す「山形エクセレントデザイン」事業を展開。山形県内で企画・開発、生産されている家庭・業務・公共用品の3分野を対象に優れたデザイン製品を選定・顕彰しています。山形商工会議所は「キラリ山形発 元気なモノ作り」シリーズ第2弾として、管内でエクセレントデザインに選ばれた事業所を紹介しています。

今月号は自動車車体メーカー(株)いそのボデー。



によって信頼関係は高まり、新たな開発、新たな顧客獲得につながる」と苦情を前向きに受け止めた。早急に取り組んだのがトラブルへの即応態勢づくり。東北、首都圏はもとより南は福岡まで各地の修理工場と提携した。ユーザーに応急処置可能な修理用マニュアルを提供した。「打って出るメンテナンス」と名付けて、例えば梅雨期に予想されるボデーの雨漏りを防ぐため、春先に一斉にユーザーを訪問し点検した。リーズナブルな価格を提供するため、内製部品を強化しコストダウンを実現した。

一方で、全国区をにらみ、新たなユーザーを求めて東京に営業マンを常駐させた。強調するのがセキュリティ。ハイテクノロジーや高付加価値商品の保護を目的に倉庫を対象とした「TAPA(タパ)国際認証」が、輸送会社にも必要な要件となりつつある。荷物輸送中の紛失等トラブルに厳しい目が向けられている。

創業は昭和2年。荷車の木製車両を作ったのが始まり。戦後、経済が急成長しトラック輸送が物流の主役

に踊り出すのと軌を一にして、磯野社長の父清治氏(代表取締役会長)がトラックボデーを手掛けた。最初が「平(ひら)ボデー」。荷台に幌(ほろ)をかけて走行、戦後の復興を支えた。1980年代に入ると登場したのが「ウイングボデー」で、幌に代わってアルミ製の翼で荷台を覆った。トラック輸送の花形で用途に応じてさまざまな形が開発されている。もちろん同社の主力商品の一つだ。

法人成り以来、今年でちょうど50周年を迎える。

「お客様からお預かりした大切な荷物を安全に確実に目的地まで届ける。それがロジスティクスにおけるセキュリティ。いかなる時代になってもトラックでの陸送は物流の主役であることに変わりはない。『そのドアは安全と信頼を生むドア』をキャッチフレーズに山形発の製品開発、迅速かつ適切なアフターサービスに取り組んでいく」(磯野社長)。

現在、「アイスキップドア」の特徴を最大限生かすため、チルド食品を扱う大手コンビニエンスストアなどへの納入を目指している。

その名も「iSkippDoor(アイスキップドア)」。山形の地からトラック物流分野のセキュリティと作業の効率化を追求(写真説明)工場では山形エクセレントデザインに輝いたボデーが同時並行で製作されている。